

中国語「速読」の実践

鈴木 誠

0. はじめに

本稿は著者が2008年度1学期に行った速読の授業についての実践報告である。中国語の速読とは、あるまとまった中国語の文章を、意味をよく理解しながら、スムーズかつリズムカルに一定の時間内で「速く読む」練習方法のことであり、通訳者養成講座などでよく行われるトレーニング方法の一つである¹⁾。速読トレーニングの授業への導入については前稿鈴木誠2007で紹介した。今回は1学期の授業を速読のトレーニング中心に組み立てた。

1. 授業のねらい

対象とした学生は麗澤大学中国語学科2年生53名(2クラス)である。本学では1年次に週6コマの中国語演習科目を、約30週履修している。速読トレーニングによる授業のねらいは、発音のさらなる向上と、中国語を話し、聞くための基礎体力作りにある。学生は1年生でピンインの読み方や綴り方を習得しており、ピンインで表記された音を発音することができる。その前提に立って、速読の授業では中国語をこれまで経験したことのない速度で読むことにより、ピンインを読むのではなく漢字と音声とをダイレクトに結びつけることを目指す。

多くの日本人学習者は中国語を聞く際、実際の音声を直接意味に結びつけるのではなく、音声をピンインに変換し、頭の中にある「ピンイン辞書」を頼りに意味を理解する傾向がある。速読トレーニング導入のねらいはピンインからいったん離れ中国語の音声と直に向き合うという点にある。

また、速読の授業には別のねらいもある。具体的な予習方法および明確な目標を提示することにより、授業以外の時間に中国語を発音する機会を増やし、必ず予習をしてから授業に出席する習慣を身につけさせる

ことである。

2. 教材の選定と速度の設定

教材はすべて CCTV（中央テレビ台）のニュース番組《新聞联播》からニュースのスク립トを利用した。教材としてニュースを使用した理由は、前稿でも述べたとおり、自然なスピードでリズムがあり、言い淀み・言い直し・言い間違いがなく、感情を込めず淡々と読むという点が、速読教材として適していると考えたからである。ニュースの内容は、できるだけさまざまな分野から 10 種類を選んだ²⁾。10 種類の速読教材については【資料】を参照されたい。教材①～⑩は、原則として文字数の少ないものから多いものへと配列してある。教材①～④は短めのニュースで速読のやり方を理解するためのもの、教材⑤、⑥はいろいろな数字を読み速さに慣れるためのもの、教材⑦～⑩は 150～300 文字へと少しずつ文字数を増やし、最終的には 300 文字を読むように編集した。

速度は 1 分間 200 文字を目安に設定した。CCTV のニュースは 1 分間 250～300 文字の速度で読まれるので、今回の設定はかなり遅めである³⁾。

3. 授業の進め方と成績評価

2008 年度 1 学期 2 年生の授業は 13 週（試験を除く）あり、授業では毎週速読教材を順番に一つずつ進めた。10 週目に教材⑩を終了し、残りの 3 週はそれぞれ別の指示を出し速読を行った。

初回の授業では、ガイダンスとして授業の目的・進め方・評価方法などを説明し、教材①～⑩のスク립トと音声 CD を配布した。引き続き教材①を用い、その場で発音や意味を調べさせた後、一定の練習時間を与えてから速読の検証を行った。2 回目教材②からは課外での練習→授業での検証のスタイルで授業を進めた。

授業では課題文を解釈した後に学生個々の速読検証を行い、設定した時間内に課題文を読み切れれば合格とした。可否の判断基準は速度のみとし、読み間違えは一切不問とした。検証の機会は授業中原則 1 回、不合格の場合はつぎの週に再び挑戦する。

授業の成績評価は平常点（速読）100点および試験（本学オリジナルテスト）100点の平均点とした。平常点（速読）の最低ノルマを教材⑥のクリア（60点）とした。

4. 実践報告

速読による授業の実践について以下の諸点から報告する。

4-1. 全体の状況

初回教材①は教材を配布した当日に検証を行い、53名中41名が合格した。教材①は32文字の短い文であり、短い練習時間でも対応可能であった。学生たちは設定時間の10秒が予想外に「長い」と実感したようだ。

6回目教材⑥終了時の合格者は53名中34名だった。1分間200文字の設定はピンインを読んでも達成可能な速度であり、合否の基準が速度のみであれば、不十分な練習であっても合格できる。そこで教材⑦以降は速度の設定に若干の修正を加え、1分間250文字とした。その結果、教材⑩終了時の合格者は53名中8名となった。

13回目の最終授業で、学生全員に教材⑩（277文字）を1分間300文字の速度で読む課題を出したところ、合格者は19名だった。

4-2. 発音の諸問題

速読でまず求められるのは声調の安定である。声調が安定しないと長い文章を速く読むことが難しくなる。授業の対象学生は2年生であり、四声の区別は初級段階ですでに習得し、少なくとも頭では理解している。よって彼らは声調を読み間違えると、その自覚症状からミス誘発し速読のリズムを失う。

3声+2声の組み合わせにミスが多発した。教材④には3声+2声の〈两国〉が3回現れ、これを2声+3声に読み間違える学生が多くいた。3声を低く抑えることは初級段階の発音指導でも強調される点であり、2年生は〈两国〉を単独で発音することはできる。しかし文の中で読む速さを要求されるとミスが起きる。

このほか、声調では2声の連続にミスが目立った。教材③に〈造成人員严重伤亡〉の一節があり、下線部には4つの2声連続して現れる。

この2声安定しない、2文字目の〈人〉を3声で発音するミスが多く、苦手なはずの組み合わせ「3声+2声」がここでは容易に実現される。また教材⑨の〈东方明珠〉の1声の連続〈东方〉が安定しないケースもあった。同じ声調の連続を嫌い自由に変調する傾向がある。ところが4声の連続（例えば教材⑧の〈汉译世界〉など）を読み間違える学生は皆無であった。

母音や子音の発音では、単母音の〈e〉や〈yu〉、無気音と有気音の区別、そり舌音などすべて初級段階で日本人学習者にとって難しいとされる発音が問題となり、速読ではその欠点が顕著に現れる結果となった。

速読は声調・母音・子音の発音の欠点を見つけるのにとっても役に立ち、その発音を繰り返し練習する速読のトレーニング方法は弱点の克服にも有効であろう。

速読の練習には配布したCDを何度も繰り返し聴くよう指示したが、〈jian〉の〈a〉を読み違える初歩的なミスが多くあり、CDを聴かずピンインを読んでいる学生が多いことも分かった。ピンインを読む意識から離れられない学生の発音は、1分間200文字の速度をクリアしても自然なリズムがなく棒読みになる。声調面では1声と3声、2声と4声の対比がはっきりせず、声調に高低の幅がない。母音の発音では〈a〉や〈wu〉を日本語の「ア」や「ウ」で代用するなどの特徴がある。これらの欠点は速く読むことにより生じた弊害というより、速読により気づかなかった欠点が明らかになったということであろう。CDをよく聴き音声を忠実に再現する意識が大切である。

4-3. 音声→意味に関して

本稿1の「授業のねらい」でも述べたように、速読のねらいは中国語の音声と意味を直接結びつけることにあるが、今回の授業でその目的を十分に達成することはできなかった。

文章の理解が不十分なことは〈多音字〉の読みからも分かる。〈为〉の意味による声調の読み分け、教材⑦の〈首相〉〈反省〉〈死难者〉などの読み間違えはCDを聴かず、辞書で発音を確認することを怠ったための誤りである。

さらに、まとまった一節を読む際に、句読点以外の場所に入る微妙な停顿（ポーズ）は意味の理解と密接な関係がある。一例を挙げる。教材⑧の一節〈已为读者奉献了以学术著作作为主的近五万种出版物〉の下線部は〈著作〉と〈为主〉が意味のまとまりであり、ごく短いポーズを置くとすれば〈著作〉の後ろである。しかし多くの学生が〈作为〉を1語と考え、〈著作〉の間に短いポーズを入れて読んだ。これは教材⑦の一節〈他作为国民的代表〉の〈作为〉が影響しているため、文章への理解不足が原因である。

課題文の意味を正確に解釈した上でCDを聴き、語と語の間にある短いポーズにまで気を配る、つまりCDを真似るように速読練習をした学生はごくわずかであった。その作業を忠実にこなした学生の中国語には強弱や緩急のリズムがあり、聴いていても意味がスムーズに伝わってきた。

4-4. 学生への動機付け

速度をクリアすれば合格という明確な目標の設定により学生の姿勢に変化が見られた。練習さえすれば達成可能な目標であり、練習量が成績に直結することで、学生は積極的に速読の練習をするようになった。12回目の授業で教材①～⑥を1分間250文字の速度で連続して読む課題を出したところ、ほぼ9割の学生が合格した。この点は今回の成果と言えるのではないか。

5. 今後の課題

今回の授業では、速読のトレーニングによって漢字（意味）→ピンイン→発音の過程から「ピンイン」部分を省き、より自然な中国語のリズムを習得することを目指した。

速読の授業は学生の授業に対する動機付けの面では一定の成果を収めたが、上述したねらいを達成するにはまだ改良の余地があるようだ。ピンインを読む意識を改めるには、一つの方法として速読の設定速度を上げることが考えられる。ピンインを讀んでいたらとても間に合わない速度、つまりほぼアナウンサーの読む速度に設定することだ。また一方で、

文章への理解を深める工夫も必要となる。来年度はさらに現行の方法に改良を加え授業を行う予定である。また機会があれば報告したいと思う。

速読授業の実施にあたっては、明海大学の長谷川正時氏から多くの有益なアドバイスをいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。

【注】

- 1) 中国語の「速読」については『通訳メソッドを応用した シャドウイングと速読で学ぶ中国語通訳会話』4～5頁に詳しい解説がある。
- 2) 2年生の中国語学習では、ほかに中国語の新聞《人民日报》講読の授業があり、その授業との連携も考慮した。
- 3) 長谷川正時氏は、速読のレベル設定を初級段階1分間220文字、中級段階1分間250文字としている。『入門からのシャドウイング 中国語短文会話360と基本文法』152～153頁参照。

【参考文献】

『入門からのシャドウイング 中国語短文会話360と基本文法』

長谷川正時・長谷川曜子著、星雲社2007年

『通訳メソッドを応用した シャドウイングと速読で学ぶ中国語通訳会話』

長谷川正時・長谷川曜子著、スリーエーネットワーク2007年

鈴木誠2007「中国語『速読』の試み」、『麗澤大学紀要』第85巻

【資料】

教材①

2007/08/15CCTV《新闻联播》

牢记历史，珍爱和平，今天，各地群众以多种方式纪念抗日战争胜利62周年。

(32/7)(10)

教材②

2007/07/02CCTV《新闻联播》

去年7月1号，青藏铁路实现全线通车。一年来，高原列车穿梭在世界屋脊，

极大地改变了西藏的社会经济发展面貌，以青藏铁路为核心的新经济带初步形成。
(64/13)(20)

教材③

2007/08/14CCTV《新闻联播》

本台消息：8月13号16时45分许，湖南省湘西自治州凤凰县沱江大桥发生坍塌事故，造成人员严重伤亡。党中央国务院高度重视，温家宝总理作出重要批示，要求地方和有关部门尽快组织各方面做好抢救和善后工作，查明原因，严肃处理。
(100/25)(30)

教材④

2007/04/12CCTV《新闻联播》

日本明仁天皇今天在皇宫会见了正在日本进行正式访问的国务院总理温家宝。

双方共同回顾了中日关系的发展，一致认为中日两国人民和睦相处，对两国有利，对亚洲和世界有利。双方都希望共同努力，推动两国实现和平共处、世代友好、互利合作、共同发展。(105/25)(30)

教材⑤

2007/08/17CCTV《新闻联播》

由于担心日元升值和全球金融市场动荡，今天东京股市日经225种股票平均价格指数下跌874.81点，收于15273.68点，全天跌幅达5.42%。其下跌点数创2000年4月以来之最，收盘点位为去年8月7号以来最低。此外，印度，新加坡，澳大利亚股市也出现下跌。(127/25)(40)

教材⑥

2007/07/23CCTV《新闻联播》

日本厚生劳动省日前公布了2006年度进口食品监控统计报告，报告显示，2006年度日本进口食品的抽检平均合格率为99.21%。虽然对中国食品的抽检率最高，但是中国出口日本的食物合格率达到99.42%，不仅高于平均合格率，而且高于美国和欧洲，美国和欧洲出口到日本的食物合格率分别为98.69%和99.38%。(156/28)(45)

教材⑦

2007/08/15CCTV《新闻联播》

新华社消息，今天是日本宣布无条件投降62周年纪念日，日本首相安倍晋三在日本政府今天举行的“全国战死者追悼仪式”上表示，日本在二战中给诸多国家特别是亚洲各国的人民造成了巨大的损害和痛苦，他作为国民的代表，在做出深刻反省的同时，对死难者表示由衷的哀悼。安倍说有责任把悲惨战争的教训传给后代。安倍还发誓要在反省战争的基础上进一步发展日本与世界各国的友好关系。(169/34)(50)

教材⑧

2007/06/06CCTV《新闻联播》

商务印书馆是我国第一家现代出版机构。110年来商务印书馆一直致力于建设和弘扬中华优秀传统文化，翻译引进海外先进文明。至今，已为读者奉献了以学术著作为主的近5万种出版物，在海内外拥有亿万读者。

近十年来商务印书馆出版图书7千多种。其中《新华字典》第10版、《现代汉语词典》第5版、影印文津阁本《四库全书》、汉译世界学术名著丛书第10辑等，都成为市场上畅销又长销的精品出版物。(166/37)(50)

教材⑨

2007/06/20CCTV《新闻联播》

再过十天，就是香港回归祖国十周年的日子。十年，香港同胞和全国人民一起开始了“一国两制”的伟大实践；十年，香港背靠祖国，与内地同心协力，战胜了亚洲金融风暴，战胜了非典疫情，世界金融中心、世界贸易中心和世界航运中心的地位不可撼动；十年，香港经济走出低谷，保持发展；十年后的今天，香港政局稳定，民生改善，港人对香港未来充满信心。十年岁月，弹指瞬间。为反映香港十年一国两制的成功实践，从今天起，新闻联播栏目推出系列报道《香港十年》。今天请看第一集：东方明珠 风采依然。(200/46)(60)

教材⑩

2007/06/07CCTV《新闻联播》

1976年中国粉碎了四人帮，在百废待兴的年代，在邓小平的亲自过问和布置下，教育部宣布恢复已经停止了10年的全国高等院校招生。以统一考试的方式，择优录取选拔人才上大学。

1977年10月20号，国内各大媒体公布了这一振奋人心的消息。

1977年11月，关闭了10年之久的中国高考考场，终于重新打开了大门，积压了整整10年的570万考生走进了考场，他们当中，年龄最大的37岁，最小的只有13岁。

1978年的春天，被录取的27万新生走进了向往已久的大学校园。

从这一年开始，中国的人才培养走上了一条健康发展的轨道。30年来，全国高考共录取考生3600万人，为国家建设源源不断地输送着各种人才。(267/60)(85)

()内の数字はそれぞれ(文字数/音源秒数)(設定秒数)を表す。なお、スクリプト中の数字の扱いはそれを声に出して読んだ際の音節数とした(例えば〈99.21%〉は〈百分之九十九点几二一〉で10文字)。